

県連制度教育研修 中堅Ⅱ期(中期)研修

心理的安全性を高める職場づくり

～いのち・くらしの護り手として～

川上和美氏のご講義では、水俣病患者と共に健康に生きる権利を守り続けてきた民医連の存在意義、民医連の職場づくりを事例を通して学習しました。その後、各自「心理的安全性を高める職場づくり」に向けた行動目標を立ててもらい、五、六名のグループで意見交換を行いました。目標設定では「一人一人の価値観、多様性を認め合う」「完全主義になりすぎず楽観的に」などが掲げられた他、全体の感想としては「久しぶりに多職種が集まったの



弘前会場

十月十一日(火)～十三日(木)、十八日(火)、十九日(水)までの五日間、青森・弘前・八戸の三会場をオンラインでつなぎ、県連中堅Ⅱ期(中期)研修を開催しました。テーマは「心理的安全性を高める職場づくり」。全日本民医連副会長・川上和美氏(熊本民医連芳和会看護介護部長)を招き、県連教育委員会としては三年ぶりに対面でのグループワークも取り入れ、計二百二十五名が学びを深めました。



青森会場

グループワークで楽しかった」「明日から目標に向け努力していこう」などの感想が寄せられました。今後は、来年一月までを目標の実践期間とし、実践後の職場や自分自身の変化を評価してもらい(レポート提出)、修了となります。変化はあったのか、あったとすればどういった変化があったのか、レポートが楽しみです。

従来、県連教育委員会では、「職場づくり」の研修を、職場管理者・職場管理補佐を対象に進めてきましたが、今回は、入職五年目～五十四歳以下の

職員(職責者を除く)が対象となる中堅Ⅱ期(中期)研修として開催しました。「職場づくり」と聞くと職場管理者の役割、責任というイメージが大きいかもしれません。確かに職場管理者にしかできないこともありますが、職場はみんなで作るものです。皆さんが理想とする職場はどんな職場でしょうか。人間関係が良い職場、意見を言い合える職場：様々だと思います。一人ひとりに「職場づくり」について考えてもらうきっかけになれば：今回はそんな思いで企画しました。参加した皆さんからの感想を参考に、今後も研修を企画・運営していきたいと思います。(津軽保健生活協同組合)

教育部 柴田杉夫



八戸会場

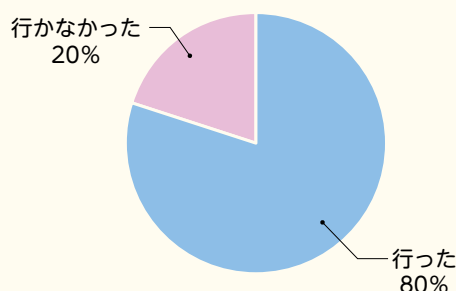
政治と社会に関する 問題意識アンケート結果の 概要について

アンケート期間

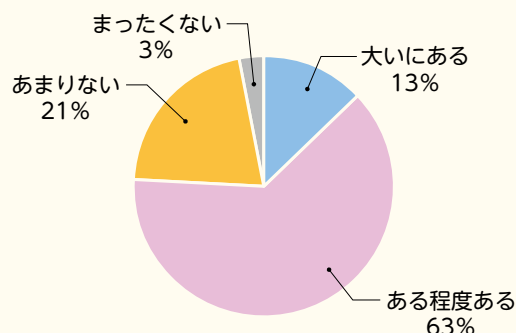
2022年
7月12日※
～30日±

7月10日、第26回参議院選挙が投開票され、社保委員会は青森民医連ではたらく全役職員 2,837人対象に政治と社会に関してどのような問題意識を持っているのか、民医連運動の前進のための課題を明らかにし、新たな展望を切り開くことを目的に「政治と社会に関する問題意識アンケート」を実施しました。アンケートは1,862人(65.6%)から回答をいただきました。

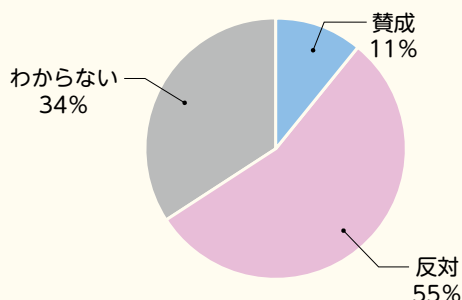
1 選挙に行きましたか。



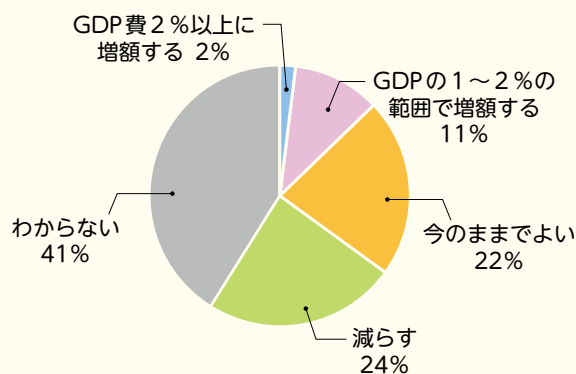
2 あなたは政治に関心がありますか。



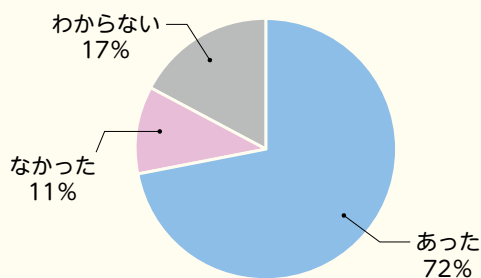
3 憲法改正についてお聞きします。 9条改憲に賛成ですか、反対ですか。



4 日本の防衛費はGDPの1%程度の5兆円あまりです。 防衛費を今後どうするのがよいか。



5 今回の参議院選挙の際にあなたの職場では 「選挙に行きましょう」との呼びかけがありましたか。



アンケート結果を受けて

結果は残念ながら、自民、公明の与党で非改選(70議席)と合わせ参院定数の過半数を維持。改憲に前向きな日本維新の会、国民民主党と合わせ、非改選を含め改憲発議に必要な3分の2(166議席)以上を維持されました。議席の上で危険な改憲の発議が近づいているように見えますが、国民の関心は経済、社会保障、暮らしの安定であって改憲など望んでいません。今回の参院選は与党の支持が減ったにもかかわらず、野党の共闘の不調で、戦争か平和かの問題を争点にできなかったため改憲勢力が大勝したと言えます。

戦争への道をひらく改憲は許さないたたかいは続きます。より地域をまきこんだ取り組みを草の根で展開し、共闘の輪を大きくひろげ、「憲法9条を守ろう」の世論を地域から浸透させることが重要です。

今後の行動提起をします。

- ①改憲発議を許さない取り組みについて、引き続き、全職員、共同組織を対象に憲法学習を重視します。また、「もし改憲されたらどうなるのか」「民医連がなぜ憲法を守り生かそうとしているのか」といった職場長の問いかけから職員は気づき、学び、行動へとつながります。職場での職場長の語りは大切です。
- ②75歳以上2割化実施に抗議、撤廃させましょう。今から全事業所でポスターを貼りだし、当事者の声に耳を傾け、寄り添い、窮地に追い込まれた高齢者の生活実態を社会に広く発信、抗議し続けましょう。
- ③秋の自治体要請において、来春の統一地方選挙を見据え、介護保険や国保、地域医療構想の問題点や改善要求など、25条を生かす取り組みを社保協と連帯しすすめましょう。
(県連社保委員会 委員長 柳谷円)

反核医師の会学生部会主催「広島フイールドワーク」の 取り組みから事前学習とオンライン企画を実施

新型コロナウイルス感染拡大以降、初めてとなる全国の医師・医学生が集まって交流する機会として「反核医師の会・学生部会二〇二二年広島フイールドワーク(FW)」が九月十八日～十九日に開催予定でした。残念ながら感染対策の事情ではなく、大型台風上陸の影響で、FWは中止となりました。

この企画には五十人を超える医師・医学生・職員の申し込みがあり、特にコロナ禍以降に入学した医学生は「他県の医学生と直接交流できる」ことを楽しみにしていました。

青森民医連からは参加予定だった四人の医学生に対して、FWを充実させるために事前学習を位置づけました。特にFW一日目に予定していた大久野島(戦争中、秘密裏に毒ガス兵器を製造していた島)に関連する学習とディスカッションをおこなってききました。

FW前日に急遽、開催中止の連絡を知って参加予定だった医学生は非常に残念がっていました。これは青森だけでなく参加予定だった各県も同じ思いだったと思います。そこで何とか医師と医学生が平和や核兵器の問題について交流できる時間をつくらうと有志によるオンライン企画が準備されました。

本来ならばFW一日目となる九月十八日に「緊急Zoom企画!広島FW中止

残念やけどオンラインで平和について語るう会」が実施されました。これは大阪の反核医師の会に所属する医師講演の動画視聴とディスカッションという内容でした。FWに参加予定だった医師・医学生・職員が二十五人参加し、講演動画の感想だけでなく、個々の核兵器や核戦争に反対する思いを交流しました。

弘前大学の二年生(医学生)の発言を紹介します。

「アメリカと協力関係にある中で集団的自衛権や憲法九条改定など唯一の被爆国として政府がやっていることに矛盾があると感じる。ICANなど地道に活動をし、被爆者の思いを若い世代が受け継いで風化させないことが必要だと思った。自分自身も活動に参加するなど、小さなことから始めることが大切だと思った。」

この医学生は企画後も継続した学習会を実施して学びを深めています。

引き続き、医学生の学びや体験の機会をつくることを大切に医学対活動を進めていきたいと思っています。

(青森民医連 矢作史考)

ICAN:核兵器廃絶国際キャンペーン。核兵器の禁止と廃絶のため活動する世界のNGOの連合体。二〇一七年にノーベル平和賞を受賞。



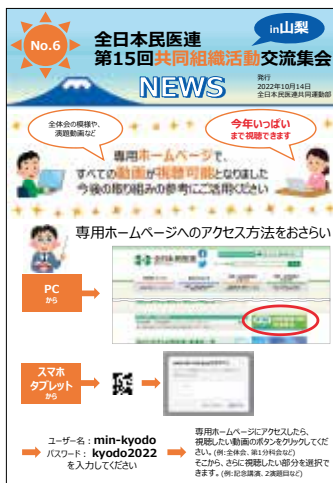
第15回 全日本民医連

共同組織活動交流集会 in 山梨

九月十一日(日)～十二日(月) 全日本民医連第十五回共同組織活動交流集会 in 山梨がオンラインで行なわれ、全国から約三千三百人が参加されました。八戸医療生活協同組合からは二日間で十六名が参加されました。

記念講演「貧困・格差による健康問題と共同組織の役割」を聞いて一番印象に残ったのは「つながりの大切さ」である。地域で役割のある高齢者は長生きであること。複数の活動に参加しているほど長生きであること。つまり多くのつながりを持つほど健康長寿になれることを追跡調査で科学的に証明してくれていた。孤独はたばこを一日十五本吸っているのと同じ害があり、つながりには禁煙に匹敵する効果があるという。地域と福祉、そして医療もつながることによって、薬だけではなくつながりで予防や治療になるという。

おかげで日頃「だれひとり取り残さない



交流集会の全体会の模様や演題動画など、年内いっぱい全日本民医連ホームページから閲覧可能です。



つながりづくり」を提唱していることに確信を持てるようになった。医療生協ではどこでも講演会や学習会はもちろん、サークル活動も盛んに行われている。また、各支部ではフレイル予防や脳いきいき、健康チェックなどの様々な活動が行われている。これこそ立派なつながりづくりではないか。このことに自信と誇りを持ち、これからは心華やぐ「つながりの場」をたくさんつくっていききたいものである。

第一分科会では平和に関する活動を紹介してもらい、今後の参考としたい。

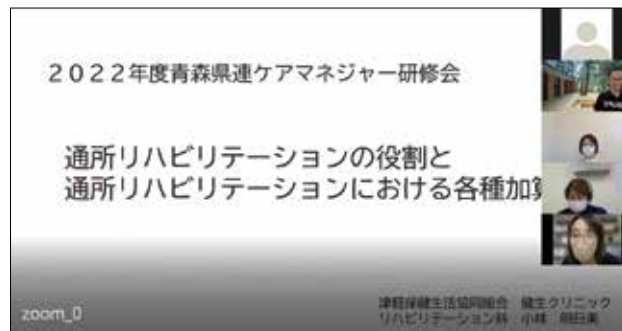
(八戸医療生協 理事長 中道博章)

2022年度 青森県民医連ケアマネジャー研修会

8月27日(土) オンラインで県連ケアマネジャー研修会が開催されました。受講者は55名でした。4事業所から指定報告があり、協立クリニック居宅介護支援事業所からは「SDHの視点を持ち支援する事」を事業所目標とし生活アセスメントの実践に取り組んでいるとの報告がありました。居宅介護支援事業所野いちごと津軽医院居宅ステーションからはコロナ禍におけるケアマネジャーの活動の変化と今後の取り組みについて報告があり、八戸医療生協協居宅介護支援事業所からはMELL+ (メルタス) を活用した多職種連携の実践について報告がありました。参加者からは情報共有における手間の削減や共有の認識が、チームケアとして活用できており、八戸はすごい！との感想あり、

参加者の興味が集中していました。次に健生クリニックリハビリテーション科技師長小林明日美氏から「通所リハビリテーションの役割と通所リハビリテーションにおける各種加算について」の講演がありました。加算の理解やリハビリ計画書の評価もケアプラン作成に活かされる事を学び、グループワークでは、講演をうけて自事業所における通所リハビリの加算取得についての現状と今後自事業所で取り組める内容は何かについて話し合われました。青森、八戸、津軽地域の情報交換の場になり、有意義な研修会であったとの感想が聞かれました。

(県連高齢福祉委員会 事務局長 高橋千津子)



中部クリニックビル

リニューアルオープン!

10月3日(月)、中部クリニックビルがリニューアルオープンしました。患者・組合員・職員が集まる中、横田理事長・伊藤所長・武井理事の挨拶の後、テープカットでオープンしました。

安方・中部エリア診療所再編プロジェクト広報グループの第1回目の会議が行われたのが2020年10月15日でした。広報グループでは安方・中部クリニック事業再編に当たって、組合員にどのように広報していくか検討・企画していきま

した。『中部クリニック記念誌「あゆみと未来へ」』の企画・発刊、法人機関紙「くらしとからだ」に「診療所再編ニュース」の連載をしていき、工事スケジュールや組合員の声、建て替えに伴う引っ越しの様子などをお伝えしました。

また、前回もご紹介しましたが中部クリニックビル完成報告の2,000件訪問を企画し、合計8回の行動で参加組合員93名、職員37名、訪問2,419件、対話810件(すべて累計)となりました。リニューアルオープンに先駆けて開催した内覧会では、組合員に加えて市内の包括支援センターや介護事業所の職員含めて333名の方に参加して頂きました。地域の皆さんを中心に、期待の声を多く寄せていただきました。

(青森保健生活協同組合 組織部次長 野村和志)



2022年度 「第23薬害根絶デー」 集会

薬害被害者の声～薬剤師ができること～

八月二十四日(水)薬害根絶デーの集会にオンライン参加しました。現地会場三十人弱とオンライン参加合わせて二百七十名という規模で開催されました。

今回の集会は薬害被害者の声や今問題となっている新型コロナワクチンの副反応も交えて話がありました。HPVワクチン接種により薬害を受けた被害者から治療状況について、近くの協力機関が機能していないため交通に時間がかかり、交通費や家族の負担が大きいなど薬害以外で本人・周りの人が苦しんでいるということ・薬害を新たに起こしてほしくないという薬害被害者の思いを聴くことができました。ワクチン接種は免疫をつける反面、副反応も多く見られています。また、新型コロナウイルスに対する治療薬については緊急承認制度(緊急時における迅速な薬事承認のために導入された制度で通常の医薬品の承認審査とは異なり、臨床試験の途中でも有効性が推定されれば、幾つかの条件や期限の下で承認を取得できるもの)が適応され、前のめりの姿勢で薬が使われようとしています。また新たな薬害を生まないようこれからも薬剤師として副作用チェックや薬の有効性・安全性を調査・確認していきたいと思っています。

(中央あけぼの薬局 山上哲司)



大野店

あけぼの薬局では全店で早朝街宣を実施しました。



中央店

2022年度

県連薬剤師二年目研修会

論文の読み方、薬・薬連携に伴う技術料・ルールを学ぶ

九月三日(土)、青森市浪岡中央公民館で県連薬剤師二年目研修が開催され二〇二一年入職した薬剤師、ファルマ弘前薬局の二名が参加しました。講師は葛丸谷卓(あおもり協立病院)、舛甚路子(あおもり健康企画)が担当し、「論文の読み方」「薬・薬連携に伴う技術料・ルールを学ぶ」をテーマに研修を行いました。

「論文の読み方」の講義ではEBMの基本的な考え方や論文を読むために必要な知識や評価方法を確認し、誤った解釈に陥りやすいポイントを症例と準備した論文を使って学びました。「薬・薬連携に伴う技術料・ルールを学ぶ」の講義では新しく追加された「服用情報提供料3」や、これまでの技術料・薬剤料の時代による変化、褥瘡の症例を用いて薬剤師のこれからのあり方などについて学びました。

二年目薬剤師の方にはこの一年間薬剤師として働いた中で、今回の研修を通して今後どのように患者と接していくかを見つめ直し、

将来どのような薬剤師になつていきたいかを見つめ直すきっかけとなればと思います。

(県連薬剤師育成小委員会 村上昌)



北海道・東北地協2022 薬学生のつどい in 宮城・岩手

～LGBTQについて学ぶ～

10月1日(金)、オンラインにて2022年度北海道・東北地協薬学生のつどいを開催し、計41名が参加しました。講師には盛岡市市議会議員加藤麻衣氏、いわてレインボーマーチ代表三宅凜月氏を招きLGBTQについてご講演いただきました。

講演の内容からLGBTQに関する基礎知識、当事者の現状を学ぶことができました。私自身講師の方々の実体験を聴いて、LGBTQに対しての誤解や偏見がまだまだ多いことがわかりました。グループワークでは、まず性別に関することやもやもやした経験を出し合いました。そのうえでLGBTQの方に対し医療従事者としてどのような配慮ができるかについて意見を出し合いました。難しい内容でしたが、参加された学生さんは自分の意見を述べたり、逆に聴いたりしてよい刺激となったのではないかと思います。また、交流企画等を通じてオンライン上という制限がある中ではありますが十分楽しめたのではないのでしょうか。今回のつどいで学んだことを今後の学生生活に活かしていただけると嬉しいです。

(あおもり協立病院 中村拓紀)



講師に質問する奨学生

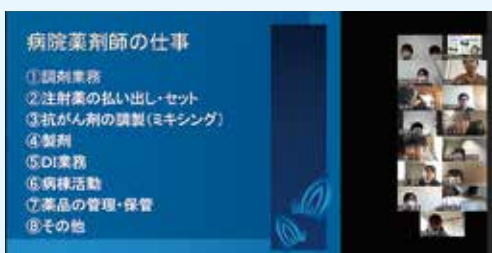
オンライン 高校生一日 薬剤師 体験会開催

昨年に引き続きオンラインにて高校生一日薬剤師体験会を開催しました。
九月十日(土)は青森会場に二十三名、十月十五日(土)は弘前会場に十五名の高校生が参加しました。

青森会場ではあおもり協立病院と大野あけぼの薬局、弘前会場では健生病院とファルマ弘前薬局の「薬剤師・薬局活動の紹介と解説」を行ない、県連薬学生小委員会が担当しました。病院薬局と保険薬局それぞれから薬剤師の話を聞ける体験会は民医連ならではの、参加した高校生には将来の進路について考えてもらうよう工夫しました。また、事前に質問も受付したうえでブレイクアウトルームを作成し薬剤師と高校生が直接質問に回答できる時間を設けました。他に人口比に占める薬剤師数(県内が全国下位であることや、全国の薬科大学数が増える一方で大学間では定員割れしている現状や、医師や看護師と比較し現役生の国試合格率が低いことも紹介し、薬科大学に入学しやすい一方でコツコツ勉強を六年間積み上げてがんばってほしいと激励をしました。地元には薬科大学があるとはいえ、私立大学学費は高いために学期間の学費を紹介した上で、青森民医連奨学金制度をはじめ高等教育就学支援制度(授業料等免除と給付型奨学金)や学生支援機構など、公的な奨学金制度の紹介をしました。

参加した高校生からは、県民が健康な生活を送るために薬剤師として貢献したい、など、前向きな意見ががり、将来、薬学生となって再会し薬剤師として一緒に働きたい魅力のある体験会を継続していきたいと思えます。

(青森民医連 立花典明)



中央社保学校

社会保障運動の大切さを学び 運動の輪を広げよう

九月十七日(土)～十八日(日)の二日間にかけて「第四十九回中央社会保障学校 from 千葉」がオンラインで開催されました。全国から八百五十二人の参加で過去最高人数でした。

一日目は、明海大学経済学部准教授の宮崎礼二氏から「安全保障と国民生活～脱新自由主義めざして」というテーマで講演があり、軍事費と社会保障費の関係やアメリカと日本との防衛費についてお話しになりました。その後、特別報告として各医療現場の方から「コロナ禍で浮き彫りとなった矛盾～医療現場からの告発～」をテーマに、これまでの振り返りや現場のひっ迫した状況の報告がありました。

二日目は、神戸大学准教授の井口克郎氏から「社会保障運動入門講座～人権としての社会保障と社会保障運動～」というテーマで講演があり、社会保障運動とは何か社会保障はなぜあるのかなどについてお話しになりました。その中で印象に残ったのは坂道モデルの絵です。支配階級の人たちが上から大きな球を蹴飛ばし、被支配階級の人民が下から押し返している図です。社会保障運動が分かりやすく表されていて、反対する人数が多くなればなるほど押し返せるのだと運動の大切さを改めて考えさせられました。また社会保障運動は憲法を武器に運動していますが、その憲法が変えられようとしている現状を聴き、憲法は国が守るものだが都合のいいように変えられるのはおかしいと思いました。まずは民医連職員から現状を把握し、同じ想いの人の輪を広げ、大きく押し返す力となるよう運動をしていくことが大切だと感じました。

その後は「届けよう現場・地域の声、広げよう運動」をテーマにシンポジウムが開催され、千葉県松戸市の取り組みや千葉県柏市での請願書運動、松戸労連のなんでも相談会、天海訴訟についてと四つの報告がありました。各地域で多くの方々が運動されているからこそ今の社会保障があるのだと考えさせられました。

第49回 中央社会保障学校 from 千葉
完全オンライン開催
2022年 9月17日(土)～9月18日(日)

若い世代もベテランも共に学び、考えよう
だれもが人間らしく生きるための憲法をいかに守る運動を

1日目 9月17日(土)
13:00～16:30
安全保障と国民生活
～「脱新自由主義」めざして～
講師 明海大学経済学部准教授 宮崎 礼二 氏

2日目 9月18日(日)
9:30～16:00
社会保障運動入門講座
講師 神戸大学准教授 井口 克郎 氏

14:45～16:15
コロナ禍で
浮き彫りとなった矛盾
～「医療・介護・公衆衛生現場からの告発」～
講師 明海大学経済学部准教授 宮崎 礼二 氏

12:00～
安房文化遺産
フォーラムの取組み
講師 安房文化遺産フォーラム 代表 長友 雅輝 氏

12:45～15:15
届けよう現場・地域の声、
広げよう運動を
講師 千葉県民医連 代表 長友 雅輝 氏

参加費：1日 5,000円・2日で 10,000円
（講師代・会場費・資料費・昼食・交通費・宿泊費は別途）
申込締切：8月26日(日)

主催：中央社会保障推進協議会・第49回中央社会保障学校実行委員会
〒13-5605-344 fax:03(5842)5656 Email:25@shahyo.jp

(藤代薬局 三上菜美)

あなたと民医連をつなぐ月報誌

いつでも元気

MIN IREN

2022 11月号 380円 好評発売中

共同組織活動交流集会 in 山梨

けんこう教室 鼻呼吸でいきいき

ひだまりの里 岡山

うちでも元気 体操&脳トレ

まじのチカラ 宮崎県椎葉村

食と健康 代謝を上げる食生活

発行：新保連医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657



2022 秋の看護・介護ウエーブ

～安全で安心できる医療・介護・福祉の確立を～

医療・看護改善共闘委員会
(青森県民医連・青森県医労連)

2022年10月8日(土)
14:00～ 青森駅前公園

2022年秋の看護・介護ウエーブは3年ぶりの現地開催となり、約70名が集まりました。オープニングにねぶた愛好会によるネブタ囃子から始まり、PPEの正しい着方の実践も取り入れ、集会アピールを行った後にパレードを行いました。

長期化するコロナ禍により、政府が推し進めてきた医療・介護・福祉などの社会保障抑制政策の誤りが明らかになりました。医療崩壊・介護崩壊が現実のものとなっているのにもかかわらず、政府はその姿勢を改めるどころか社会保障抑制政策を強めています。経済対策を打つことができないばかりか、ロシアによるウクライナへの軍事政策を口実にして改憲や防衛力の強化、防衛費倍増を唱え、



日本を戦争ができる国に変える動きを強めています。

私たちの望む社会は、差別されることなく、誰もが、必要な時に、必要な医療が受けられる。そんな社会ではないでしょうか。地域医療・地域社会が守られ、希望が持てる社会の実現にむけてみなさんとともに奮闘していきましょう。

(青森民医連 次長 對馬康文)



うちの メコツコ

vol. 69

♥ name ららちゃん

♥ age 13歳

我が家の4女

13年前の2月勝野家に4女がやってきました。

知り合いから譲りうけたトイプードルの女の子、生後2か月、名前は「らら」。

我が家は子供3姉妹なので、ららは勝野家の4女になりました。

初めて犬を飼う事になった私たちは、とにかく可愛がり躰の仕方もわからず、とてもわがままに育ててしまいました。ある日、他のワンちゃん和交流させたいと、ドッグランに連れて行っただけですが、交流するはずもなく、とにかく他のワンちゃんを吠えながら追いかけてまわす事態、とても恥ずかしい思いをして帰ってきました。他のワンちゃんとの交流はこの時あきらめました。(笑)

そのららも今では13歳、人間でいえば68歳、当たり前ですが一番年上になってしまいました。大きな病気もけがもせず、元気に育ってきましたが、今年の5月突然余命宣告を受けてしまい、私と娘は診察室で放心状態、涙があふれました。腎不全で何も治療しなければあと1年。透析が必要ですがもちろんそれはできず、週2回のペースで皮下点滴の治療をしています。今は体調はさほど変わりなく元気になっていますが、日に日に弱っていくんだろうなと思うと切ないです。ららとの時間を大切に生活しています。

(生協さくら病院 外来看護長 勝野祥子)



私の三つ星★★★★

オススメ

三陸沿岸道路

私がおススメするのは三陸沿岸道路です。「復興道路」と言った方が伝わるかもしれません。

三陸沿岸道路(八戸～仙台)は2021年12月18日に全線開通しました。全長359kmのうち333kmは無料区間です。約5時間で八戸～仙台を走行でき、震災以前より約3時間短縮になりました。片道1車線なので実際はもう少し時間はかかりそうですが、とても近くなりました。

有料高速道路と違う点は、パーキングエリアが無いことです。休憩などは一般道に出る必要がありますが、インターチェンジが集落ごとにあり、道の駅もインターチェンジ付近にあるので困ることはないと思います。

これは復興まちづくりの側面もありますが、三陸沿岸道路自体が避難場所となるよう、防災拠点へのアクセスなどを考えられて建設されているためです。

安心して行動できるようになったら、ぜひ三陸沿岸道路を利用してみてはいかがでしょうか。

(あけぼの薬局八戸店 岩本るり子)



昔は牛で塩を運んでたよ 銅像



食べかけソフトクリーム

「道の駅のだ」

三陸沿岸道路・野田ICより車で2分
鉄道駅(三陸鉄道・陸中野田駅)と道の駅と一緒にあった全国でも数少ない駅
愛称: ソルトロード

11月 2022年11月 第7回理事会報告

>> 全日本民医連理事会報告関係

>> 県連出向人事

>> 決裁事項

奨学生関係

県連・地協・全日本関係

>> 協議事項

令和4年台風15号に伴う静岡市・浜松市への災害義援金
のご協力の依頼について

新型コロナウイルス対応各法人・事業所の対応状況につ
いて

>> 医師委員会関連

>> 各種委員会

各種委員会報告・署名到達

>> 報告事項

全日本民医連 通達・声明

北海道・東北地協 通達関係

>> 各法人・事業所報告